

三信ネットワークサービス株式会社

顧客システムの安定稼働を支える サーバー監視/復旧支援サービスを 「BOM for Windows」で実現

システム開発・保守、及び各種サービス事業を手がける三信ネットワークサービス株式会社では、長年にわたり培った運用管理ノウハウを活かしたサーバー監視/復旧支援サービスを展開している。このインフラとして活用されているのが、セイ・テクノロジーのサーバー監視オールインワンツール「BOM for Windows」だ。

多彩な監視機能を用いて顧客システムの安定稼働を支えると同時に、月額課金型サービスの利用によるコスト削減にも成功している。



導入前までの経緯

- 業務サーバーの運用監視をアウトソーシングしたいとの顧客ニーズが一段と高まってきた。
- 幅広い領域にわたるサーバー監視を効率的、かつ低コストに実現できるツールが求められた。

導入後に期待される効果

- 監視、監視+復旧保守支援の2つのサービスを提供し、顧客システムの安定稼働に貢献。
- 「BOM for Windows」の採用により、高品質な監視サービスを低コストで実現する事に成功。



三信ネットワークサービス株式会社
システム技術部長 佐野 弘明氏

持ち前の技術力を活かし 高品質なソリューションを提供

東京都・港区に本社を置く三信ネットワークサービスは、東証一部上場の情報通信企業、三信電気のグループ会社である。同社 システム技術部 部長 佐野 弘明氏は「三信電気が受託した案件の設計・構築や、アフターサポート業務が当社のビジネスの大きな柱。社内には様々な分野の技術に精通した技術者が在籍しており、音声系やネットワークも含めた高信頼なICTインフラをご提供できます。さらに自前のコールセンターも保有していますので、構築から運用・保守に至るまでワンストップでお任せいただけます」と説明する。

また、同社のビジネスのもう一つの柱が、

ネットワーク監視サービスをはじめとする各種のサービス事業だ。ICTインフラの専任要員を確保することが難しい中堅・中小企業では、システム運用に苦慮しているところも少なくない。そこで同社では、ユーザー企業に代わって様々な運用管理業務を実施。現在では売上の半分以上がサービス事業で占められているとのことだ。

サーバー監視サービスの基盤に BOM for Windowsを採用

こうした同社のサービス事業の中でも、近年特に利用が拡大しているのがサーバー運用監視サービスである。同社 システム技術部 1課 主任 福留 聖文氏は「ネットワークの運用監視サービスをご利用頂いているお客様から、『サーバー監視も一緒にアウトソーシングできないか?』とご相談頂いたのが検討のきっかけです。お客様先の業務サーバーには当社グループで構築したものも多いので、なんとかご要望にお応えしたいと考えました」と振り返る。

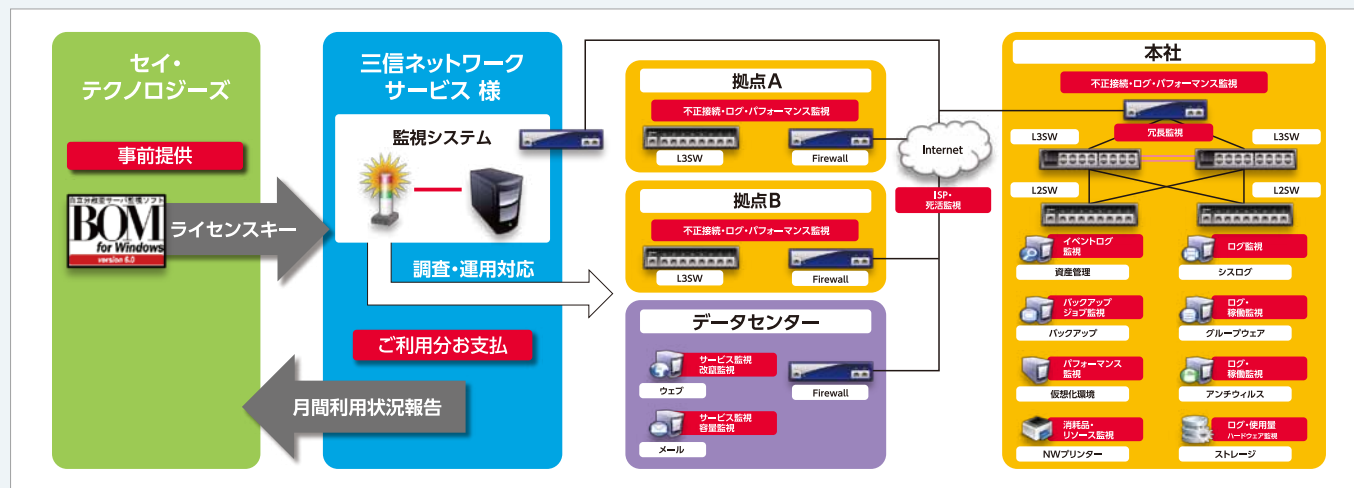
現在提供されているサービスは、「SANSHIN SERVER MONITOR」(SSM)

と「SANSHIN SERVER RESCUE」(SSR)の2種類である。前者は24時間・365日にわたってサーバー監視を行い、障害やトラブルの予兆を迅速に検知するというもの。また後者のSSRでは、SSMによるモニタリングに加えて、障害の一次切り分けと初期対応、発生・進捗連絡、復旧支援、結果報告・履歴管理、月次報告などの対応も実施される。

「特にSSRでは、障害箇所の特定などを済ませた上でご連絡を行いますので、お客様にご負担を掛けることなくスピーディな対応が行えます。特別な専門知識を持たない方が管理者を任されているような企業でも、安定的なシステム運用が実現できます。また、監視メニューの内容も柔軟にカスタマイズできますので、お客様の環境にフィットしたサーバー監視サービスをご提供できます」と佐野氏は語る。

もっともSSM/SSRの開発にあたっては、解決すべき課題もあった。それはユーザー企業のサーバー監視に利用するツールをどうするかという点だ。「当社が求めるサーバー監視要件を満たしていることはもちろん、既存のネットワーク監視環境ともスムーズに連携できる製品でなくてはなりません。また、お

BOM for Windows 月額サービス提供例



三信ネットワークサービス株式会社
システム技術部 課主任
福留 聖文氏

お客様へのサービスコストが抑えられるという点も重要なポイントでした」と福留氏は語る。

こうした条件をクリアする製品として採用されたのが、リソース監視、稼働監視、ログ監視、リモート監視などの多彩な監視項目に加えて、充実した通知機能や自動リカバリー機能なども装備するサーバー監視オールインワンツール「BOM for Windows」(BOM)であった。

月額課金型サービスを利用し 高品質な監視環境を低コストで実現

BOMを選んだ理由について、福留氏は「元々当社では、以前から社内システムの監視やお客様向けのソリューションにBOMを活用しており、監視機能の充実度や使いやすさを高く評価していました。そこで今回のサーバー監視サービスについても、BOMを選ぶのがベストという結論に達しました」と語る。

また、もう一つの決め手は、柔軟な提供形態が用意されている点だ。セイ・テクノロジーズでは通常のパッケージ販売だけでなく、同

社のようなサービス事業者やSIerを対象とした月額課金型のサービスも提供している。これを利用すれば、初期投資コスト不要で監視サービスを始めることが可能。後は毎月の使用状況を報告し、その分の料金を支払うだけで良い。自社サービスにBOMを利用していることを特に明記する必要もないため、エンドユーザーに対する費用請求が複雑化する心配もない。こうしたメリットが高く評価され、セイ・テクノロジーズ全体でみるとBOM月額課金サービスの利用実績は既に20,000件以上にも達している。

同社では、他社製ツールの採用などは全く考えなかったとのこと。福留氏は「一般的な統合運用監視ツールでは、サーバー監視の監視項目ごとにライセンス費用が発生してしまうため、お客様のコスト負担も重くなってしまふ。その点、BOMはスタンドアローンでも動作する製品であり、サーバー監視の監視項目も1ライセンスあたり200項目まで設定可能。既存のネットワーク監視環境に手を加える必要もありませんでしたので、コスト面でのアドバンテージは明らかでした」と続ける。

月次のレポート情報を システム改善にも活用

同社ではBOMの機能と長年にわたり培った運用監視ノウハウを組み合わせ、顧客企業で稼働するサーバーの状態を常に監視し続けている。「お客様にとっての最大の目標は、自社のビジネスを支えるICTインフラを安定

稼働させるという点にあります。このご要望にしっかりと応えていく上で、BOMは大きな効果を発揮してくれています。また、当社のサービス事業を発展させるためのツールとしても、大いに役立ってくれていますね」と佐野氏は満足げに語る。ちなみに顧客企業の中には、社内で稼働する数十台のサーバーをすべてSSM/SSRで監視しているところもあるとのことだ。

また、SSM/SSRの活用は、今後に向けたシステム改善の分野へも広がっている。「BOMには、監視対象サーバーの稼働状況を簡単な操作で出力できる強力なレポート機能機能が備わっていますので、これを利用して月次のパフォーマンス状況やリソース使用状況をお客様にご報告しています。これをご覧頂ければ、次回のシステム更新時にどれくらいの能力が必要かを簡単に見積もれます。履歴を取ったりグラフを描いたりといった作業には意外と手間が掛かるので、管理者の方々からも喜ばれています」と福留氏は語る。こうした取り組みを通して安心感を提供することで、監視・保守サービスの継続率アップにもつなげているのである。

近年では中堅・中小企業においてもクラウドの導入機運が高まっているが、インフラの形態が変わってもシステム運用監視の問題が無くなることはない。同社でもサービス事業のさらなる拡充を図り、顧客の期待にしっかりと応えていく構えだ。BOMが活用されるシーンも、ますます広がっていくことだろう。



製造・開発元

セイ・テクノロジーズ株式会社

〒112-0005 東京都文京区水道1丁目12番地15号 白鳥橋三笠ビル8階
TEL.03-5803-2461 FAX.03-5803-2463

<http://www.say-tech.co.jp/>

※記載されている会社名および製品名、ロゴは各社の商標または登録商標です。
※記載されている内容は予告なく変更する場合がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ